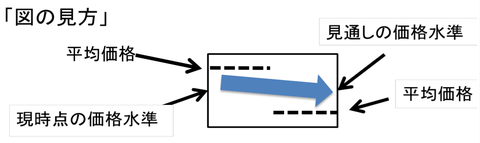
平成29年7月24日
独立行政法人農畜産業振興機構

野菜の需給・価格動向レポート（平成２９年７月２４日版）

１　主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

「図の見方」



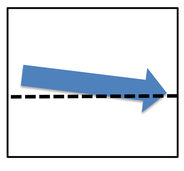
平均価格（点線）は、レポート期間中に変動する場合があります。

種類		（参考）保証基準額の算定の基となる平均価格	６月の価格情報 指定野菜の関東・近畿ブロック 旬別平均販売価額 中旬	６月の価格情報 指定野菜の関東・近畿ブロック 旬別平均販売価額 下旬	７月の価格情報 （参考）保証基準額の算定の基となる平均価格	７月の価格情報 指定野菜の関東・近畿ブロック 旬別平均販売価額 上旬	７月上旬の関東及び近畿ブロックの入荷量（　）内は、本年と過去３カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の8月上旬までの見通し	
葉茎菜類	キャベツ	67.20	68 (101%)	80 (119%)	74.19	67 (90%)	・10,139t (101%)	群馬(72)		群馬産は、生育は順調で品質もよく、6月下旬の降雨と気温の上昇で、遅れていた生育が回復したことから、現在平年よりやや多めの出荷は、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 群馬産の出荷は平年よりやや多めと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。
		81.66	74 (91%)	86 (105%)	88.91	65 (73%)	・3,493t (92%)	群馬（70），長野(26)		
	たまねぎ	78.12	87 (111%)	89 (114%)	93.34	90 (96%)	・4,552t (106%)	兵庫（39），佐賀（10），香川(9)		兵庫産は、７月から貯蔵物の出荷となっており、作柄は平年並みとなったことから、引き続き平年並の出荷の見込み。佐賀産も貯蔵物の出荷となっており、作付面積の減少等から、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。香川産も貯蔵物の出荷となっており、引き続き平年より多めの出荷の見込み。 佐賀産の出荷が平年より少なめと見込まれるものの、香川産及び兵庫産の出荷が平年より多めまたは平年並みと見込まれ、また輸入ものの残量が多く、実需の引きが弱いことから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。
		78.12	84 (108%)	86 (110%)	93.34	94 (101%)	・1,564t (80%)	兵庫（81）		
	ねぎ（関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ）	277.31	412 (149%)	431 (155%)	287.00	440 (153%)	・1,301t (104%)	茨城（59），千葉（14）		茨城産は、露地作に切り替わり、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、6月の出荷が7月にずれこんだものの、干ばつによる影響もあり、現在平年並みの出荷は、引き続き平年並みで終盤に向かう見込み。 茨城産および千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、７月中旬から下げ基調となり、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
		334.73	280 (84%)	270 (81%)	487.13	252 (52%)	・242t (99%)	香川（27），徳島（23），三重（17）		
	はくさい	67.05	84 (125%)	82 (122%)	58.82	50 (85%)	・3,784t (114%)	長野(90)		長野産は、準高冷産地から高冷産地への産地の切り替わりとなる時期であるが、高冷産地の生育が順調なことから、現在やや多めの出荷は、引き続きやや多めの出荷の見込み。 長野産の出荷がやや多めと見込まれることから、現在平均を下っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。
		74.06	86 (116%)	80 (108%)	62.79	48 (76%)	・2,679t (122%)	長野（100）		
	ほうれんそう	376.10	513 (136%)	449 (119%)	583.95	450 (77%)	・618t (116%)	群馬（27），茨城（23），栃木(22)		群馬産は、生育は順調で、遅れていた出荷が回復したことから、現在平年よりやや多めの出荷は、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。茨城産は、高温多湿による品質の低下が一部で見られるものの、概ね順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産は、7月上旬の高温により前進出荷となったことから、現在やや少なめの出荷は、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 栃木産は平年よりやや少なめと見込まれるものの、群馬産及び茨城産の出荷が平年よりやや多めまたは平年並みと見込まれることから、7月中旬に一時的に入荷が減ったことで上げ基調となり、現在平均を上回っている価格は、今後は平均並みに推移する見込み。
		416.73	661 (159%)	590 (142%)	670.87	563 (84%)	・242t (93%)	岐阜（81），北海道(8)		
	レタス（結球）	120.13	111 (92%)	89 (74%)	120.13	81 (67%)	・5,499t (93%)	長野（83）		長野産は、6月下旬の降雨と気温の上昇により、生育が順調なことから、引き続きやや多めの出荷の見込み。 長野産の出荷がやや多めと出荷となっていることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。
		125.61	118 (94%)	91 (72%)	125.61	81 (64%)	・1,761t (89%)	長野（98）		
果菜類	きゅうり	189.84	262 (138%)	225 (119%)	221.22	225 (102%)	・3,385t (100%)	福島(38)，岩手(12)，秋田(11)，山形(7)		福島産は、適度な降雨と気温上昇により生育が回復し、現在平年よりやや多めの出荷となっているのの、今後は平年並みの見込み。岩手産は、５月下旬以降の天候不順が回復し、生育も順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。秋田産は、６月からの低温による露地作の生育の遅れから、現在やや少なめの出荷となっているものの、ハウス作の生育は順調で、気温の上昇とともに平年並みに回復の見込み。山形産は、天候が回復し、生育も順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 福島産、岩手産、秋田産及び山形産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
		186.08	220 (118%)	184 (99%)	232.80	192 (82%)	・1,239t (109%)	福島（28），北海道（25），愛媛（21），香川（8）		
	トマト（大玉）	230.55	260 (113%)	312 (135%)	252.46	256 (101%)	・5,091t (107%)	青森(14)，北海道(12)，栃木(11)，千葉(10)，岩手(7)，茨城(7)，群馬(7)		青森産は、気温の上昇により遅れていた出荷が回復し、引き続き平年並みの出荷の見込み。北海道産は、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産は、冬春作が出荷終盤を迎え、今後も平年並みの出荷の見込みであり、７月末で切り上がる予定。千葉産は、夏秋作の作付面積が減少していることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。岩手産は、5月下旬以降の低温の影響がみられることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み、茨城産は、平年より少なめのまま切り上がりの見込み。群馬産は、気温上昇に伴い、今後は平年並みに回復の見込み。なお、東北産は、今後気温高が続くと、花落ちなどの品質の低下が懸念される。 群馬産の出荷が平年並みに回復するものの、他の産地からの出荷が現在の状況が続くと見込まれ、現在平年並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
		239.96	265 (110%)	299 (125%)	298.46	251 (84%)	・1,846t (118%)	北海道（45），岐阜（12），熊本（11）		
	なす	311.92	365 (117%)	340 (109%)	230.51	307 (133%)	・2,583t (120%)	群馬（30），茨城(26)，栃木（24）		群馬産は、天候が回復し、生育も概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産及び栃木産は、生育が順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 群馬産、茨城産及び栃木産の出荷が平年並みと見込まれることから、7月に入って下げ基調となっている価格は、平均に近づくものの引き続き平均を上回って推移する見込み。
		271.01	319 (118%)	291 (107%)	232.81	249 (107%)	・1,051t (103%)	山梨(29)，徳島(17)，大阪(14)、奈良(9)		
	ピーマン	276.65	336 (121%)	348 (126%)	276.65	366 (132%)	・1,050t (107%)	茨城（58），岩手(25)		茨城産は、春作の出荷終盤を迎え、玉伸びが良く着果量が確保されていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。岩手産は、天候の回復により、現在出荷ピークの露地作の生育が概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 茨城産及び岩手産の出荷が平年並と見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		293.32	262 (89%)	304 (104%)	293.32	306 (104%)	・440t (117%)	青森(15)，兵庫(14)，大分（12），宮崎（10），北海道（8），高知（8）		
根菜類	だいこん	86.59	115 (133%)	100 (115%)	94.60	79 (84%)	・2,544t (98%)	青森(48)，北海道（46）		青森産は、現在はやや少なめの出荷となっているものの、温度・日照は確保されていることから、今後は平年並みの出荷の見込み。北海道産は、低温等による生育遅れの影響は残るものの、生育は概ね順調なことから、引き続きやや多めの出荷の見込み。 青森産の出荷が平年並みに回復し、北海道産の出荷がやや多めと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。
		89.53	127 (142%)	104 (116%)	95.37	72 (75%)	・1,501t (113%)	北海道（69），青森(18)，岐阜(11)		
	にんじん	133.01	135 (101%)	132 (99%)	133.01	101 (76%)	・3,475t (97%)	青森（52），北海道(23)，千葉(22)		青森産は、好天で生育は回復し、引き続き平年並みの出荷の見込み。北海道産は、主産地が出そろい、概ね生育も順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、7月で切り上がるものの、５月の干ばつ傾向の影響による出荷の遅れが回復したことから、平年より多めのまま切り上がりの見込み。 青森産及び北海道産の出荷が平年並みと見込まれるものの、千葉産の出荷が、平年より多めと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。
		132.62	107 (81%)	97 (73%)	132.62	93 (70%)	・1,282t (93%)	青森（60），北海道（29）		

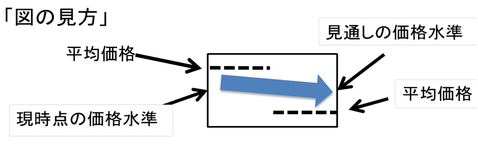
注：１　平均価格は、過去６カ年（平成20～25年）の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）で、保証基準額の算定の基となる価格。
２　旬別平均販売価額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
３　単位は円/ｋｇ、上段は関東、下段は近畿ブロック。
４　主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（　）内は入荷シェアで平成28年実績である。
５　コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。

１　主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類		６月の価格情報 (参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック 旬別平均販売価額 中旬	下旬	７月の価格情報 (参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック 旬別平均販売価額 上旬	７月上旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 （　）内は、本年と過去３カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の8月上旬までの見通し	
いも類	ばれいしょ	138.39	135 (98%)	135 (98%)	111.77	139 (124%)	・1,795t (91%)	茨城（37），千葉(21)，静岡(16)，北海道(9)		茨城産は、好天で生育が回復したものの、肥大が進まず、小玉傾向となっており、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、出荷の終期を迎え、現在平年より少なめの出荷は、干ばつ傾向の影響で肥大不足が進まず、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。静岡産は、出荷の終期を迎え、干ばつの影響により、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。北海道産は、大雨、低温の影響により一部ほ場で生育が遅れがみられるものの、平年並みの出荷の見込み。 茨城産の出荷が平年並み、千葉産および静岡産の出荷が平年よりやや少なめのまま出荷終了と見込まれるものの、8月の出荷量の太宗を占める北海道産が平年並みと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、平均並みに推移する見込み。
		144.98	140 (97%)	144 (99%)	111.77	151 (135%)	・458t (79%)	北海道（32），長崎（22），千葉（14）		

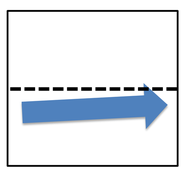
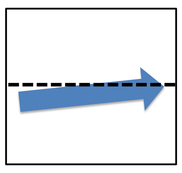
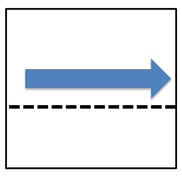
「図の見方」



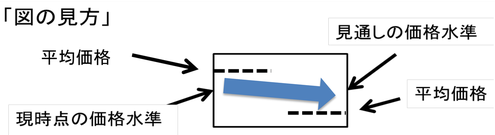
平均価格（点線）は、レポート期間中に変動する場合があります。

注：１　平均価格は、過去６カ年（平成20～25年）の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）で、保証基準額の算定の基となる価格。
２　旬別平均販売価額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
３　単位は円/ｋｇ、上段は関東、下段は近畿ブロック。
４　主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（　）内は入荷シェアで平成28年実績である。
５　コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。

１　主要野菜の生産出荷状況（特定野菜）

種類		６月の価格情報 (参考) 過去５カ年平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格 中旬	下旬	７月の価格情報 (参考) 過去５カ年平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格 上旬	７月上旬の東京都及び大阪市場の入荷量 （　）内は、本年と過去３カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の8月上旬までの見通し	
洋菜類	ブロッコリー	397	464 (117%)	465 (117%)	371	365 (98%)	・587t (121%)	北海道（59），長野（23）		北海道産は、天候の回復により、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。長野産は、６月下旬の降雨で生育が前進化し、現在平年より多めの出荷となっているものの、一時的に出荷の谷間を迎えたのち、平年並みの出荷の見込み。 北海道産は平年並みと見込まれ、長野産は一時的に出荷の谷間を迎え、平年並みと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、平均並みに近づくものの、引き続き平均を下回って推移する見込み。
		424	475 (112%)	479 (113%)	424	394 (93%)	・183t (134%)	北海道（49），長野（34）		
	アスパラガス	1147	1673 (146%)	1531 (134%)	1009	1061 (105%)	・197t (119%)	佐賀（22）栃木（20），長崎（16），福島（11）		佐賀産は、気温の上昇等により、一時的に平年より多めの出荷となっているものの、全体的に草勢が弱いことから、今後は、平年より少なめの出荷の見込み。栃木産は、生育期の低温等の影響で生育遅れがあったものの、夏芽の生育が順調なことから、引き続き平年並みの出荷量の見込み。長崎産は、7月末に出荷のピークを迎えるものの、生育期の低温の影響から、引き続き少なめの出荷の見込み。福島産は、生育期の低温等の影響による生育遅れから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 栃木産の出荷が平年並みと見込まれるものの、佐賀産、長崎産および福島産の出荷が平年より少なめまたはやや少なめと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、平均並みに推移する見込み。
		1110	1643 (148%)	1438 (130%)	999	985 (99%)	・72t (121%)	佐賀（35），福岡（21），長崎（18），タイ(6)		
果菜類	かぼちゃ	207	248 (120%)	261 (126%)	212	264 (125%)	・1157t (101%)	茨城（24），神奈川（18），鹿児島（11）		茨城産は、一部で生育遅れがあったものの、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。神奈川産は、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。鹿児島産は、出荷終期を迎え、平年並みの出荷のまま切り上がりの見込み。 茨城産および神奈川産において現在の出荷状況が続くと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		144	189 (131%)	196 (136%)	151	206 (136%)	・309t (61%)	メキシコ（41），長崎（18），NZ（11），石川（8）		

「図の見方」



平均価格（点線）は、レポート期間中に変動する場合があります。

注：１　平均価格は、過去５カ年（平成24～28年）の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
２　旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/ｋｇである。
３　旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
４　主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（　）内は入荷シェアで平成28年実績である。

２　トピック　　－　トマトの需給動向（その２）について　－

２回目は、作付面積・出荷量と年々増加しているミニトマトを取り上げる。（作付面積は平成28年は平成19年の133%、出荷量は同127%）

〇さまざまな大きさのトマト
トマトには、大玉、ミディ（中玉）、ミニ、マイクロなどさまざまな大きさのトマトが量販店等に出回っている。概ね150グラム以上が大玉、40から150グラム程度がミディ、20から30グラムはミニ、マイクロは5～7mmでとても小さい。マイクロトマトは主に愛知県の園芸組合から出荷されていて、見た目の珍しさとかわいらしさで、料理の飾り付けなどに利用され、消費者からも注目されている。

〇ミニトマトの普及
日本でのミニトマト栽培は、昭和50年代後半より盛んになった。それまでは、旅客機の機内食用として僅かな量しか栽培されていなかったものの、小さいため「扱いやすい」「食しやすい」「料理などの彩りとして重宝する」などの特長が受け入れられて急速に普及した。
ミニトマトは、大きさや着果状況は原種に近く、「プチトマト」や「チェリートマト」とも呼ばれている。諸説あるが、ミニトマトを販売した農業協同組合が商品名として「プチトマト」と名付けたともいわれている。この「プチ」はフランス語（小さい）ではなく、食感の「ぷちっ」が用いられているとのこと。
ミニトマトは連続着花し、また着果するまでの期間が大玉より短いため、一果当たりの単価は安いものの、重量当たりの単価は平成２８年の東京卸売市場の価格をみると、年間を通して、大玉より214から386円ほど高い。
作付面積は、大玉トマトは微減しているものの（平成28年は平成19年の93%）、ミニトマトが増加している（同133%）。
品種は、「千果（ちか）」「サンチェリー」「キャロル」、「アンジェレ」などさまざまで、最近は、甘味が強く酸味はあまりないロケットミニの「アイコ」や果皮の黄色い「イエローアイコ」もよく出回っている。品種ではないものの、技術の普及およびマーケティング戦略の成功例として肉厚でジューシーな「アメーラルビンズ」や果皮の黄色い「ルビンズゴールド」が、有名である。

〇ミニトマトの効用
また、栄養価は大玉トマト比で、カリウムは1.7倍（290ミリグラム／１００グラム）、食物繊維は1.4倍（1.4グラム／100グラム）、βカロテンは1.7倍（960ミューグラム／100グラム）（日本食品標準成分表2015年版（七訂）2016年11月30日更新）と大玉と比較して高いのも特徴である。特に鮮やかな赤い色素のもととなっているリコピンには、活性酸素を取り除く「抗酸化力」があり、また、他にも脂肪肝、血中中性脂肪改善に有効な機能性成分を持っていることから、太りにくい体質づくりにも効果が期待されている。加熱しても効果が落ちることはなく、油で炒めると体への吸収率が高まると言われている。
そのままでも、煮込みでも、ジュースにしてもおいしい見栄えのする使い勝手のよい野菜でもある。

図１　トマトとミニトマトの作付面積と出荷量の推移

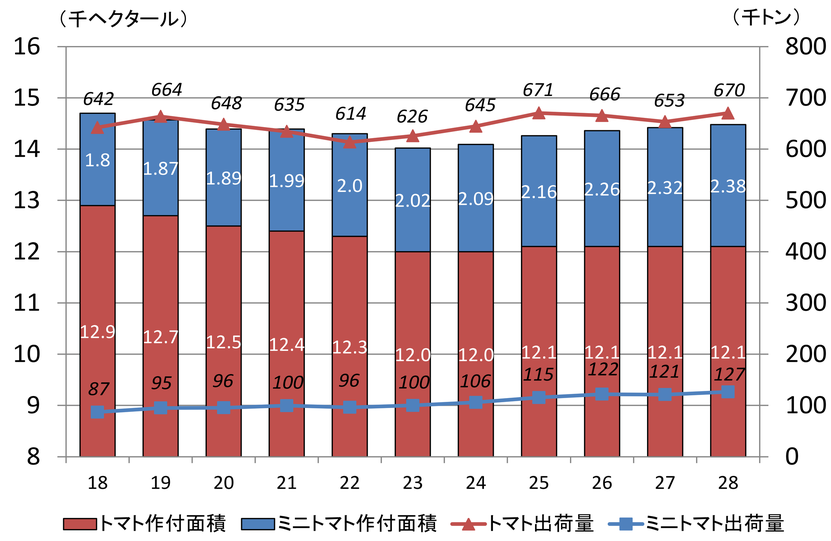


図３　トマトとミニトマトの入荷量と単価の推移（東京都中央卸売市場）

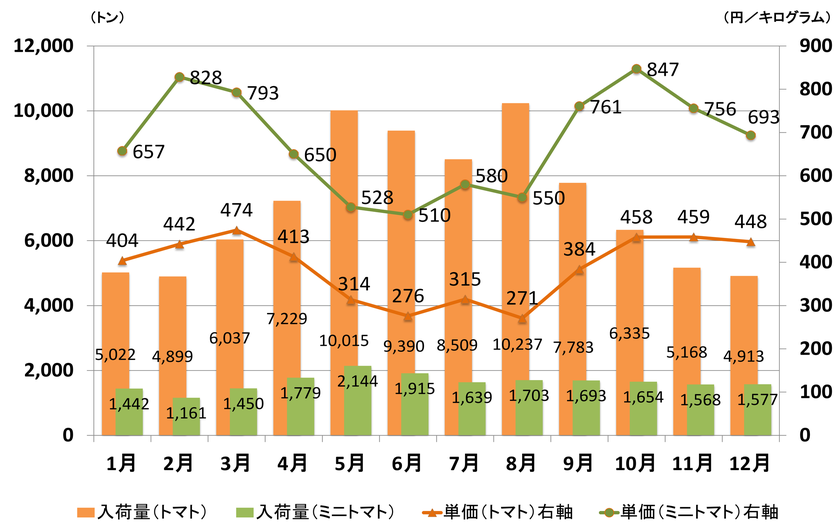
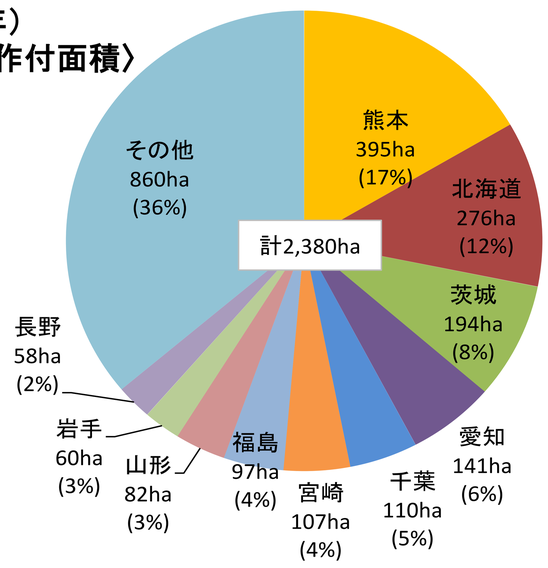
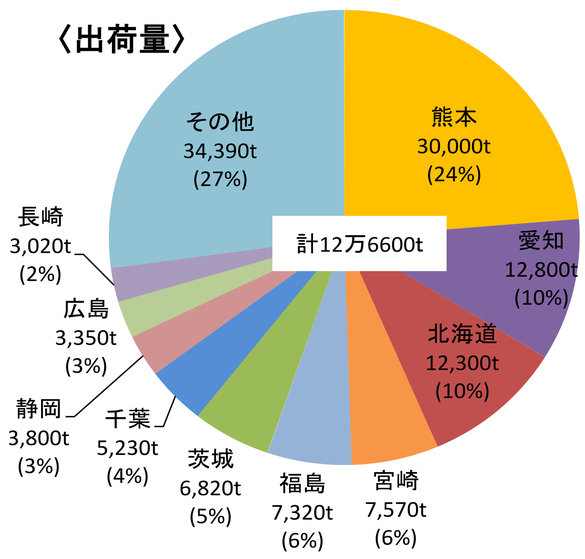


図２　ミニトマトの産地別作付面積および出荷量（平成28年）

〈作付面積〉



〈出荷量〉



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」、東京・大阪「市場月報」）

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部　需給業務課 安藤、松岡、植村　TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484　ご意見、ご要望をお寄せください。
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html に掲載しています。
※無断転載禁ず　・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。